

木城町図書まつり

「メディア漬け」で壊れる 子どもたち

～子どもたちのために今なすべきこと～

清川輝基・内海裕美 講演会



20世紀後半から、テレビ、ビデオ、テレビゲーム、パソコン、ケータイなど電子映像メディアが急速に普及し、それに伴って日本の子どもたちの生活も大きく様変わりしてきました。その結果、子どもたちの「心」や「からだ」の発達に、それまで見なかった変化(遅れや歪み)が起き始めています。

いったい何が起きているのか。それはどうしてなのか。「子どもの危機」的問題にどう向き合っていけばいいのか。

長年テレビ報道・番組制作に携わり、子どもの問題も含めてさまざまな社会事象と向き合ってきた清川輝基さんと、医師として小児医療の現場に携わりながら、子どもたちのからだと心の問題に取り組んでおられる内海裕美さんが、多角的な視点から現代の子どもたちの実相を検証し、そこからどう克服するか、手がかりを提案いたします。



講演テーマ

「絵本の読みきかせで親子の絆」

2011年11月3日(木)

▼13:00開演(15:40終了)

木城町総合交流センター「リバリス」にて

〔参加対象〕大人(中学生以上) / 〔料 金〕 無料 / 〔定 員〕 300名(先着順)

〔主 催〕木城町教育委員会 〔共 催〕木城えほんの郷

＜お申し込みは/木城町総合交流センター図書室か木城えほんの郷へ＞

清川輝基(きよかわ てるもと)

1942 年生まれ。64 年、東京大学教育学部教育行政学科卒業。
同年、NHKに入局。社会報道番組ディレクターとして、「ニュースセンター9時」などを担当。
NHK特集「警告！子どもの体は蝕まれている！」(78)
「何が子どもを死に追いやるのか」(79)など制作。
19時ニュース編集責任者、報道局次長、NHK放送文化研究所研究主幹、などを歴任。
その間、慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所講師も勤める。
また、「子ども劇場」創立(66)、「チャイルドライン支援センター」設立(99)
などの活動も行ってきた。
NPO子どもとメディア代表理事
NPOチャイルドライン支援センター代表理事
NHK放送文化研究所研究アドバイザー
日本小児科医会「子どもとメディア対策委員会」顧問
「子ども白書」編集委員
さくら国際高等学校・校長
著書に『人間になれない子どもたち』樫出版

内海裕美(うちみ ひろみ)

1980 年、東京女子医科大学医学部卒業。
同年、東京女子医科大学小児科学教室に入局。
87 年、同教室を退局後、スウェーデン、ストックホルム市で子育てに専念。
88 年、東京女子医科大学小児科学教室研究生。
東京女子医大病院、愛育病院などの外来診療に従事。
90 年、医学博士号取得。97 年、吉村小児科(文京区)開業。
地域で毎月1回子育て支援セミナーを開催したり、絵本の読みきかせ活動をしている。
厚生労働省少子化対策特別部会メンバー。日本医師会母子保健検討委員会委員。
日本小児科学会次世代育成委員会委員
日本小児科医会子どもの心対策部担当常任理事として子どもとメディア委員会担当
「子ども白書」編集委員。NPOチャイルドライン支援センター理事
文京区子育て専門相談員
著書に、『はじめよう臨床医にできる子育てサポート21』(分担執筆)(医学書院)
『チャイルドヘルス』(診断と治療社)連載中、など多数。

<お申し込みは>

木城町総合交流センター図書室(TEL0983-32-2115/ FAX0983-32-2380)

木城えほんの郷(TEL0983-39-1141/FAX0983-39-1180)

▽▽▽▼

▼▼

▼

▼▽▽

▼

▼▽▽

申 込 書

2011 年 月 日

氏名	住所 〒	電話番号